

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1

謹啓時下炎暑之砌倍御多祥奉慶賀候

却說弊會占守島本部員等越年の成績如何に就ては豫て一方ならず御高配を蒙り居候處去る五月中軍艦武藏千島
巡航の便にて全地よりの報告に依れば昨年八月石川丸（弊會所屬帆船）該地引揚以來御蔭を以て一名の病者も無之一同愉
快に事業に従事し會員中には子女を擧げし者も有之生兒も皆々健全に生長致居る趣に候間乍憚御安心被成下度
願上候軍艦航の便に依り 弊會長郡司成忠よりは非一書相呈し平素御無沙汰の御詫旁彼地の狀況をも御報可申上
の處本年は軍艦の來航意外に早く碇泊日子も至て僅少（五月二十三日正午投錨）にして剩へ北海道廳及全支廳等より
數名の官吏出張相成左なきだに多忙の折柄一層の多忙を極め執筆も相叶申さず候に付き略儀乍ら私より此儀宜
く御詫致すべく申越候間何卒不惡御推願上候

占守島に於る昨年八月以來詳細の狀況は事業報告書に譲り左に概要のみ申上候

昨三十年八月下旬石川丸占守島を引揚げ候頃は殆んど鱈魚の終季に屬せるのみならず一昨廿九年は移住の季節少しく遅れ越年準備に不充
分の點少からざりしを以て本年は假令漁獵業上の収入を減ずることあるも寧ろ越年準備を完全にして良好なる成績を擧ること肝要なれと存じ
從來別飛漁場に派遣せる會員中五名を殘し秋季に於る全地鮭魚湖上の調査に従事せしめ餘は尽く片岡灣に復飯せしめて他の會員と共に石川
丸の齎し來れる家屋切組材料三棟の内貳棟を片岡灣に（壹棟は住舎他）殘餘の壹棟を別飛漁場（鹽切）に建築せしめ尙昨年來單身者の難居せし
家屋を改造し單身者五名宛を一家族として住居せしむることなせしに九月下旬には工事全く結了したるを以て直に新材の切り出し木炭の
製造雪圍用の草苧草苧採り等それ々手分て従事せしめ十一月下旬に至り至るまで越年準備を了り申候

昨年は早くより越年準備に従事せし甲斐ありて住舎燃料等の設備充分なりしのみならず農業の成績も亦意外に宜く（今後數年を経ば耕作地積
驗を得て農産物中米麥其他雜穀を除く外）收穫も相應に有之又冬季中別して必要なる動物性食料中魚肉には鱈鮭其他の難魚鳥獸肉には海驢
は他地方より供給を仰ぐ必要なるべし）收獲も相應に有之又冬季中別して必要なる動物性食料中魚肉には鱈鮭其他の難魚鳥獸肉には海驢
海豹鴨等を貯藏（此外各家族自己に於て準備）せしが故に此上は各自の攝生上の注意さへ怠らずば水腫病を豫防することも決して難事にあら
ざるべしとは會員全員の意向にて有之申候

かくて越年準備も無滞相了候に付十二月上旬より總員舉て當卅一年度漁業準備に着手し専ら漁網釣具等を製作し海陸獵業は唯僅かに業務の
餘暇に於て各自の希望に依り出獵せしめたるに過ぎず蓋し獵業は僅少の資本にて比較的多くの收穫ありと雖も陸獸は其棲息地に限あり繁殖
は常は獵獲に伴はず海獸は人の其群接場を侵すに遇へば漸次に安全なる群接場に移轉し去る等決して鱈鮭其他の漁業の如く永遠に確實な
るものにあらざるを以て斯くは漁業に重きを置きたる次第に御坐候

かくて本年も追々極寒の季節（二月最も）と相成候處積雪の量も昨年より少く平均約三尺に過ぎず寒威も亦昨年より弱く最高温度華氏三十五
度より最低全拾四五度の間を昇降し流水及風も昨年と大同小異にして概して凌ぎ宜く有之申候回顧すれば昨年當季は水腫病患者續々發生し
誠に悲惨を極めたりしが本年は會員が攝生法に經驗を得しと越年準備の宜きを得しとに因り此の恐るべき疾病の痕跡だも無之從來世人の多
くは水腫病を以て一種の免るべからざる風土病の如く思惟して恐怖せしめ此の數年の經驗に依りて該病が決して風土病にあらざることも占
守島の風土氣候が決して人間の住居に適せざることなきことも隨て我日本帝國の版圖内に人民の住すべからざる地なきことも明かに相成申
候（但し本年五月一名の會員雪崩の爲
重傷を負ひ候は實に残念に御坐候）

前述の如く一同健全にて相働さ候に付四月下旬積雪も過半融解候頃には網其他の用意も全く出來候に付直に漁船を賦して別飛漁場の支度に
赴かしめ候處是又五月中旬迄に相了り武藏號の飯途に就きたる時分には天候次第投網せんとて皆々勇み立ち居り又農業も五月中旬より着手
致したる由に候

以上は實に昨年八月來占守島弊會支部（本）の概況に御座候尙ほ因に當支部に於る事業の一斑を左に陳述仕候

曩きに北海道廳より貸與せられし帆船龍丸は北海の航行に適せざることあり豫て改造の許可を得たりしが愈々本年二月下旬を以て大坂
難波島福井芳松氏に托し工事に着手せしに全氏が大に弊會の事業に賛同し義侠的精神を以て工事を施行せられしと同市官民有志諸君より
懇到なる助力を與へられしに依り去る五月三十日を以て滞りなく落成を告げ其構造堅牢緻密なりとの世評を博せしは實に同氏及官民有志
諸君に感謝する處に御坐候六月三日同地出帆讀州坂出にて食鹽を購入し馬關を経て去る七月三日無事函館に入港し全船長より本船は運轉の
工合極めて好良なりとの報告を得たり同月七日夜半水産調査の傍鹽遠洋漁業試験の目的を以て本船乗組員及び占守島行き漁夫獵師等男女合
計廿一名を搭載して全島に向ひ出帆仕候

本年五月會員川口甲介をして漁夫獵師婦人等都合廿貳名を引率し軍艦武藏號に便乗を乞ひ占守島に赴かしめ候處全艦には豫備石炭を搭載せ
らるゝ等にて艦内狹隘を感ぜらるゝにも係はらず右人員の外尙漁舟等迄搭載を許され艦長以下乗組員諸君より非常の便宜を學へられしは實
に感謝に勝へざる處に候右漁夫等は占守島着後直に漁場に派遣したる由に候

右は早々得貴意可申の處龍睡丸工事其他會務多忙の折柄 當支部員中本部に復飯し或は船員に轉せし者有之候爲め
尙更ら不行届勝に相成遂に今日迄延引仕候次第無禮の段偏に不惡御思召被成下度願上候勿々頓首

報效義會東京支部長

加藤洋

明治卅一年七月廿一日

大隈伯對劄



大腰何留時閣下
執事即生

小森川原早稲田





東京芝神明町一番地

報效義會東京支部

明治二十一年七月五日